

平成25年度進行管理・評価シート
佐川町歴史的風致維持向上計画（平成21年3月11日認定）

（最終変更平成23年8月22日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)

1 庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催	1
------------------------------	---

②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)

1 佐川町街なみ景観条例に基づく措置	2
2 土地利用に関する今後の措置	3

③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)

1 まちの駅活性化事業(協議会活動助成事業)	4
2 牧野公園整備事業	5
3 標識整備事業	6

④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)

1 文化財の保存・活用について	7
文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について	
2 文化財の保存及び活用の普及・啓発につ	8
3 文化財の防災について	9
4 埋蔵文化財の取扱いについて	10
5 文化財の修理について	11
文化財の保存・活用を行うための施設について	
文化財の周辺環境の保全について	

⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)

1 富太郎の生家完成	12
2 佐川町の歴史景観保存 旧酒蔵商家「浜口邸」を改修	12
3 佐川町歩きガイド人気	12
4 風情ある和風空間で一服 浜口邸に喫茶コーナー	12
5 冬の白壁 影絵で彩る	12
6 歴史的景観整備 5年間延長へ	12
7 移築「名教館」完成 4月5日オープン	12

□総括評価シート【方針の達成状況等】(様式2)

①計画に記載している方針(様式2-1)

1 住民参加による歴史的風致の維持向上	13
2 文化資源の包括的な活用による歴史的風致の維持向	14
3 教育・産業等との連携による歴史的風致の維持向上	15
4 さらなる歴史的・文化的資源の発掘による歴史的風致の維持向上	16
5 制度面の整備による歴史的風致の維持向	17

□総括評価シート【代表的な事業の質の評価】(様式3)

①歴史的風致維持向上施設の整備・管理(様式3-1)

1 佐川町文庫庫舎(旧青山文庫)移築・活用事業	18
2 浜口邸買取・整備事業	19
3 牧野富太郎生家再生事業	20
4 牧野公園整備事業	21

□法定協議会等におけるコメントシート(様式4)	22
-------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	平成25年度
		現在の状況	
庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	佐川町歴史的風致維持向上計画を円滑かつ着実に遂行するために、計画推進体制(事務局と審議組織との連携)を強化し、歴史的風致維持向上計画協議会の活動をサポートしていく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
円滑な事業推進を図るため、庁内会議(総務課、産業建設課、教育委員会事務局)を16回、佐川町歴史的風致維持向上計画協議会を2回開催した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		庁内の連携を強化し、協議会での評価・意見を実施する体制を整えるために、庁内会議(総務課、産業建設課、教育委員会)を頻繁に開催し、円滑な事業推進に努めた。	
状況を示す写真や資料等			
 庁内会議の様子 庁内会議 (総務課、産業建設課、教育委員会) 平成25年 4月 5日 平成25年 5月14日 平成25年 5月30日 平成25年 6月18日 平成25年 7月 8日 平成25年 7月25日 平成25年 8月15日 平成25年 8月20日 平成25年10月22日 平成25年11月 8日 平成25年12月 2日 平成25年12月 9日 平成25年12月13日 平成25年12月24日 平成26年 1月 9日 平成26年 1月31日  第1回協議会の様子 佐川町歴史的風致維持向上計画協議会 第1回(平成25年12月17日) ・歴史的風致維持向上計画の概要及び取組みについて ・歴史的風致維持向上計画を補完する事業 ・佐川町歴史的風致維持向上計画計画の変更について 第2回 平成26年2月17日) ・佐川町歴史的風致維持向上計画の変更について			

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	平成25年度
		現在の状況	
佐川町街なみ景観条例に基づく措置		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	佐川町街なみ景観条例では、景観の形成を図るために必要な地区を景観形成特定地区として指定することとし、同地区内における次の行為をしようとする者は、あらかじめその内容を町長に届け出なければならないとしている。当該届出があった場合は、町長は助言又は指導ができ、及び技術援助又は経費の助成ができると定めている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
現行の街なみ景観条例は、当町が街なみ環境整備事業(平成5年度～14年度)を実施した当時制定したものである。そのため内容的に現況と合致していない点も多々あることから、歴史まちづくり法に沿ったものへとするために、平成25年度は前年度に引き続き現条例で景観形成地区と定めているものを歴史的風致維持向上計画重点区域と改めることに関する検討をおこなったが、具現化には至らなかった。なお、景観計画等に基づく届出など、制度運用の実績はなし。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		この条例は、街なみ環境整備事業の推進に対応したものであることから、歴史的風致形成建造物の修理等に対応できる内容に改正が必要。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸②-2

重点区域における良好な景観を形成する施策

評価対象年度		平成25年度
項目		現在の状況
土地利用に関する今後の措置		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	街なみ景観条例及び景観形成基準の見直し、景観形成特定地区の重点区域への再指定、及び都市計画の高度地区設定並びに景観計画の策定等の実施を検討する。また、「第4次総合計画」の土地利用構想を詳細にし、ゾーニングの精度を高める土地利用計画を検討する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
佐川町は、重点区域のまちなみを維持向上するために、本計画期間内に景観条例及び景観形成基準の見直しをおこなうと共に、土地利用構想を具現化するため、詳細なゾーニングを定める土地利用計画の策定の検討をおこなうこととしている。平成25年度は、前年度に引き続き「第4次総合計画」における土地利用構想の検討をおこなった。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	重点区域の土地利用の更なるゾーニングが可能かの検討が必要。加えて、歴史的建造物の修理に係る意匠基準及び補助制度について検討する。	
状況を示す写真や資料等		

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成25年度
項目			現在の状況
まちの駅活性化事業（協議会活動助成事業）			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成21年度～平成30年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	歴史的街なみを保全し、活気と潤いのあるまちづくりを進めるために、地域の文化的資源を再確認し、良好な街なみ形成方策等に係る勉強会、見学会、資料作成、コンサルタント派遣等を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
維持向上計画の基本方針の一つである住民参加による歴史的風致の維持向上を図るため、情報発信のツールの一つとして名境教館、牧野富太郎ふるさと館のパンフレットを10,000部作成した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		整備された関連施設等をもっと多くの人に周知するため、今後、町内のみならず、県内外の情報発信拠点で作成したパンフレットの配布等行っていく。	

状況を示す写真や資料等



牧野博士生家を再生
大正時代の牧野博士生家

牧野富太郎の生家である、唯一残る当時の写真を手がかりに、牧野生家跡地に再生されました。

建物の外観は資料から読み取り、当時の建築様式と整合を図りましたが、外観や意匠はできるだけ当時の雰囲気を再現しています。



誕生之地記念碑
昭和27（1952）年土蔵文化向上事業によって建立されました。



博士ゆかりの資料を展示
資料展示室

ふるさと館川内では、博士の遺品や資料を展示しています。



セミナー室
集客施設として、小規模な教室やイベントを開催できます。一部の利用も可能です。



牧野公園
牧野博士の名を冠した公園。博士から贈られた花を園内に植える所となっています。博士ゆかりの植物も多く見られ、四季を通じて楽しめます。



観音山文庫
観音山文庫は、富山から明治にかけての蔵書が主ですが、館内にある「牧野」では、富山ゆかりの蔵書も展示しています。



牧野 富太郎
(まきの とみたろう)
生年 2（1862）年
昭和 32（1957）年

生年 2（1862）年 4月24日、西暦（西川）の通り町（現・富山）の川内町に生まれる。幼少から植物に興味を持ち、名義（めいこうかん）で学んだ後、医学で植物学の研究を続ける。

1902年（明治35）年、東京大学理学部植物学教室で植物分類学の研究に打ち込む。

明治 31（1898）年に「日本植物志」を自費出版。同2年には日本としてみても新発見の植物「ヤマトグサ」を発見し、「日本植物志」を著す。大層な人びとに尊敬され、その結果、やがて植物学に深くのめり込む。95年の生涯において産した植物は約40万種。新種や新品種など約1,500種以上の植物を命名し、日本植物分類学の基礎を築いた。

富山の町で、町名の「サカサヤシ」の「サ」の字を、富山の町にちなみ「佐川」の字に改める。佐川町名（現・佐川町）。

牧野富太郎ふるさと館利用のご案内

- ◆開館時間 9時～17時
- ◆入場料 無料
- ◆休館日 月曜日（例年12月31日を除く）
- ◆アクセス 富山駅から車で約15分（徒歩）に約30分（バス）
- ◆駐車場 富山駅から車で約15分（徒歩）に約30分（バス）



〒929-1301 富山県佐川町1460番地
TEL 0859（20）9500
FAX 0859（20）9501



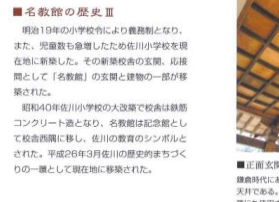
さかわめいこうかん 佐川名教館
(高知県佐川町)

■名教館の歴史Ⅰ
安永元（1772）年6代藩主、深根藩主は高知城下より山本白子を招いて家塾として「名教館」を創設。ついで享和2（1802）年七代藩主はこれを拡充して学校とした。天保になって九代藩主は校舎を深根園に移して広大な敷地に文武館を設け、その中に名教館を建築した。それは佐川町の明治期に育った教育施設で、土蔵校を凌ぐ充実した内装と設備を誇るものであった。



■名教館の歴史Ⅱ
この建物は天保2（1830）年に建築され、元富山内田中元光公を祀る神社の志士たちや、牧野富太郎博士など佐川に世に名を残した人物が、学舎などこの「名教館」で学んでいる。明治初期には英語の授業も始まった。

校舎は常陸藩の模範校として、正面に入母屋造の玄関が特徴的。建物は重葺きで、明治になって深根園はこれら文武館の敷地建物の一切を買い取った。名教館を「名教書院」と改名。後に、「石手館」、「佐川小学校」となる。



■名教館の歴史Ⅲ
明治19年の小学校令により義務制となり、また、児童数も急増したため佐川小学校を現在地に新築した。その新築校舎の玄関、児童館として「名教館」の玄関と建物の一部が移築された。

昭和40年佐川小学校の大改築で校舎は鉄筋コンクリート造となり、名教館は記念館として校舎西側に移し、佐川の教育のシンボルとされた。平成26年3月佐川の歴史まちづくりの一環として現在地に移築された。



■正面玄関のガラス戸
幅の広い二枚のガラス戸で、扉部分に二枚の障子。上面に頂上のガラスを入れた障子である。当初は板戸だったものが明治期にガラス戸に変更された。



■正面柱の根廻り
和風の柱の根廻り木造根廻り字の一つである。根廻り大根廻り。上下前後左右の柱にも根廻りがあるので、柱の足元が覆われた時に根廻りを固定する伝統的な木造根廻りである。



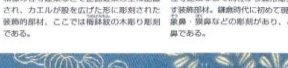
■近世和風建築の正面音階
建物は分門音階の下段音階で、上部は五分音階を施した10段音階。



■近世和風建築の正面音階
建物は分門音階の下段音階で、上部は五分音階を施した10段音階。



■近世和風建築の正面音階
建物は分門音階の下段音階で、上部は五分音階を施した10段音階。



■近世和風建築の正面音階
建物は分門音階の下段音階で、上部は五分音階を施した10段音階。

評価軸③-2 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		
項目		評価対象年度 平成25年度 現在の状況
牧野公園整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成21年度～平成25年度	
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)	
計画に記載している内容	牧野富太郎博士の顕彰を図るために、牧野公園に遊歩道の整備と博士由来または縁の深い植物並びに秋期も楽しめる紅葉樹を植栽し、憩いと学習の場として公共公益施設の高質化を実施する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
公園利用者が安全に利用してもらうために、遊歩道の舗装整備(788.6m)を予定していたが、舗装構成及び排水設備の検討に時間を要したため、遊歩道の整備に至らなかった。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	牧野博士に由来する植物の植栽や雨天時の利用者の安全確保の観点から、植物の生育環境の配慮や降雨時に利用しやすい公園にするため、整備には雨水対策が必要となった。その対策を検討し、遊歩道の舗装整備に反映するようにするため、事業期間を延長する。	
状況を示す写真や資料等		
   降雨時には川のように雨水が遊歩道を流れている		

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成25年度
		現在の状況	
標識整備事業		☐ 実施済 ☐ 実施中 ☒ 未着手	
事業期間	平成25年度～30年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	国道33号及びJR佐川駅から重点区域への誘導を円滑にするとともに、歴史的風致の啓発に資するために、各所に標識及び説明板を設置する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
設置場所・工法等の選定が難航し、標識及び説明版の設置に至らなかった。			
進捗状況 ※計画年度との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		設置場所・工法等の未決事項について、関係者協議の必要がある。事業期間を平成26年度に延長し、道路管理者及び隣接地権者を含めた関係者協議を進め、早期の事業着手・完了を目指す。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	平成25年度
		現在の状況	
文化財の保存・活用について 文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	現在、文化財の保存・活用に携わる団体は積極的、かつ地道な活動を展開しており、まちづくり行政等との連携も十分にとれている。今後も、こうした活動の前進を更に目指し、行政との連携も一層強化する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
佐川文庫庫舎は、NPO法人佐川くろがねの会を中心にした多彩な催しや、住民によるサークル展などが実施され、12月末には初めて結婚式のため開放した。 重点区域内においては昨年度の牧野富太郎博士の生誕150周年を契機に始まった植物標本教室や植物にちなみこけ玉教室、草木染め教室を本年度初めて催した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		NPO法人や観光協会との連携は、順調に進んでいる。しかしながら、町全体を回遊するまでに至っていないことが課題になっている。 今後は有効な対策を検討するとともに、観光ボランティアガイド、町観光協会と協働して、さらに集客につなげるよう、歴史的建造物の活用をさらに図っていきたい。	
状況を示す写真や資料等			



▲ 佐川文庫庫舎内。町内の美術サークル展等も行われている



▲ 植物標本教室 (H25. 8. 2)



▲ こけ玉教室 (H25. 9. 16)



▲ 草木染め教室 (H25. 11. 16)



▲ クリスマスリース教室 (H25. 12. 3)



▲ 佐川文庫庫舎 (H21. 3復原)

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成25年度
		現在の状況
文化財の保存及び活用の普及・啓発について		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 文化財の価値を町民がより理解し、保存や活用の意識を高めるため、学校教育では町独自の文化財教育・文化財見学会を実施し、社会教育等では文化財や町の歴史に関する教室の開催、分かりやすいパンフレットの作成による啓発活動などを行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

黒岩小学校で卒業生(高校生)も含めて、「太刀踊り子ども教室」を開催し、高知県の無形文化財である「佐川の太刀踊り」の継承に取り組んだ。他にも斗賀野小学校児童による花取踊り(町指定無形文化財)や黒岩中学校で瑞応の盆踊り(県指定無形文化財)に児童・生徒が取り組み、地域の行事などを通じて成果を披露し、地域の伝統芸能としての位置づけを高めた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒ 計画どおり進捗している
☐ 計画どおり進捗していない

過去の歌詞と現在歌われている歌詞とに、かなりの違いが見られるため正確な資料の作成を検討しているが基本的に口伝のため困難な状況が数年来続いている。今年度も聞き取り調査を中心に、引き続き文化財保護審議委員等による調査を行ったが新たな発見はなかった。今後も引き続き調査を行う。



◀ 黒岩小学校で継承に取り組んでいる「四ツ白太刀踊り」。毎年11/3に行われる仁井田神社秋の大祭での奉納にも参加している。



◀ 斗賀野小学校で継承に取り組んでいる「花取り踊り」。毎年11/12には学校近くの白倉神社への奉納にも参加している。



◀ 黒岩中学校では地域の人に「瑞応の盆踊」の指導を受けている。開催日当日(8/16)は夏休みの夜間であるため個人参加となっているが、運動会など学校行事の際に披露されている。

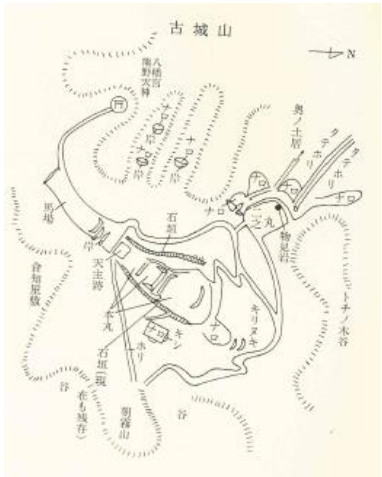
評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

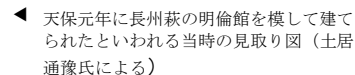
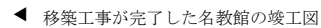
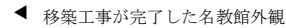
項目		評価対象年度	平成25年度 現在の状況
文化財の防災について			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	現在も実施している所有者、地域住民、消防署、地区消防団が一体となった防火訓練も更に質量共に充実したものとしていく。加えて、「文化財防火デー」には、上記住民・団体及び文化財保護審議会委員等が各地区の文化財における防火訓練を実施しており、今後も継続していく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重点区域内には自主防災組織が設立されており、地域の防災についての意識も高く、地域でも住民が主体となって、消防署、消防団とともに年1回の訓練を実施した。 また、文化財防火デー(1/26)や文化財パトロール(10/10、11)など、あらゆる機会を通じて、引き続き文化財の保存や防災の大切さについて関係者などに周知を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		南海地震の発生が予測されていることもあって、所有者や、関係者には防災について一定理解が高まっている。今後は、建造物の耐震性を高めていくことが検討課題となっている。 今後は、耐震化についても順次実施するよう検討したい。	
状況を示す写真や資料等			
   ◀ 1/26の文化財防火デーには、地域住民による自主防災組織、文化財保護審議会などが参加し、消防署員より初期消火について説明を受けた。 ◀ 当日は訓練用の消火器による消火訓練や、消防署への模擬連絡などが行われた。 ◀ 実地訓練終了後には、文化財保護審議会委員より文化財の危機管理の重要性について説明し、地域住民に有事の際の協力を要請した。			

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	平成25年度
		現在の状況	
埋蔵文化財の取扱いについて		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	機会あるごとに埋蔵文化財の持つ意義や重要性及び所在地を町広報やその他の方法により広く住民に周知する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重点区域内唯一の埋蔵文化財、佐川城址については、平成25年10月10日に文化財保護審議会委員(巡視員)とともにパトロールを実施し、昨年度の写真の比較や、目視により保存状態に変化はないことを確認している。			
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)			
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 ◀ 石積み部分には今のところ異常はみられないが、周辺の雑木による悪影響が発生しないよう伐採について検討している。  ◀ 佐川城址見取(昭和56年佐川町発行「わが町の文化財と旧跡」より転載)			

状況を示す写真や資料等



評価軸⑤-1
効果・影響等に関する報道

評価対象年度		平成25年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
富太郎の生家完成	平成25年4月23日	高知新聞
佐川町の歴史的景観保存 旧酒蔵商家「浜口邸」を改修	平成25年6月3日	高知新聞
佐川町歩きガイド人気	平成25年9月24日	高知新聞
風情ある和風空間で一服 佐川町 浜口邸に喫茶コーナー	平成25年10月10日	高知新聞
冬の白壁 影絵で彩る	平成25年12月7日	高知新聞
歴史景観整備 5年間延長へ	平成26年2月13日	高知新聞
移築「名教館」完成 4月5日オープン	平成26年2月28日	高知新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

地元新聞への掲載回数 7回以上。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
口計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし	報道件数が増え、知名度がアップしたこともあって、重点区域の入込客数が着実に増加している。

状況を示す写真や資料等

富太郎の生家完成

あす12ゆかりの資料展示

佐川町

「富太郎の生家」が完成した。富太郎の生家は、佐川町の歴史的景観を伝える重要な存在である。完成した生家は、富太郎の生家として、あす12ゆかりの資料展示が行われる。展示は、富太郎の生家の歴史や、富太郎の生家の文化を伝える貴重な資料が展示される。展示は、富太郎の生家の歴史や、富太郎の生家の文化を伝える貴重な資料が展示される。展示は、富太郎の生家の歴史や、富太郎の生家の文化を伝える貴重な資料が展示される。

佐川町の歴史的景観保存 旧酒蔵商家「浜口邸」を改修

秋から食事や宿泊可能に

落成式に110人

「佐川町」高知新聞 31日に完成した。天井が竹を編み込んだ、歴史的景観の保存と、旧酒蔵商家「浜口邸」の改修が完了した。落成式は、秋から食事や宿泊が可能になる。落成式は、秋から食事や宿泊が可能になる。落成式は、秋から食事や宿泊が可能になる。

佐川町歩きガイド人気

利用者既に12年度の1.4倍

佐川町

佐川町歩きガイドは、佐川町の歴史的景観を伝える貴重な資料である。利用者数は、既に12年度の1.4倍に増加した。佐川町歩きガイドは、佐川町の歴史的景観を伝える貴重な資料である。利用者数は、既に12年度の1.4倍に増加した。佐川町歩きガイドは、佐川町の歴史的景観を伝える貴重な資料である。

風情ある和風空間で一服 佐川町 浜口邸に喫茶コーナー

浜口邸に設けられた喫茶コーナー

佐川町

浜口邸に設けられた喫茶コーナーは、風情ある和風空間で一服を味わうことができる。喫茶コーナーは、浜口邸に設けられた。喫茶コーナーは、浜口邸に設けられた。喫茶コーナーは、浜口邸に設けられた。

冬の白壁 影絵で彩る

きょう酒蔵ロード劇場

佐川町

冬の白壁 影絵で彩る。きょう酒蔵ロード劇場は、冬の白壁を影絵で彩る。きょう酒蔵ロード劇場は、冬の白壁を影絵で彩る。きょう酒蔵ロード劇場は、冬の白壁を影絵で彩る。

歴史景観整備 5年間延長へ

酒蔵・旧呉服商家を改修

佐川町

歴史景観整備 5年間延長へ。酒蔵・旧呉服商家を改修。歴史景観整備 5年間延長へ。酒蔵・旧呉服商家を改修。歴史景観整備 5年間延長へ。酒蔵・旧呉服商家を改修。

佐川町 移築「名教館」完成 4月5日

佐川町

佐川町 移築「名教館」完成 4月5日。佐川町 移築「名教館」完成 4月5日。佐川町 移築「名教館」完成 4月5日。佐川町 移築「名教館」完成 4月5日。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成20 年度～ 25 年度
計画に記載している方針	住民参加による歴史的風致の維持向上 ○ 建造物・施設管理・活用を住民グループ・NPOに委託 ○ 住民と行政の協働により桜再生の具体的な取り組みを進める ○ 民族芸能の後継者育成のため、芸能関係者、地域住民、行政が連携を深め、加入促進の手立てをさらに進めていく。
計画に記載している課題	○ 町民有志やボランティアにより、老朽木や雑木の伐採、桜の苗の植樹等が行われているが、まだまだ十分とはいえる状況にない。 ○ 当町においては、特に農村部は高齢化及び過疎化の進行が著しい。地域の若者人口の減少は、地縁団体の活動の弱体化を招く。このことは、その地縁団体に活動の根をおく民族芸能の後継者不足に繋がってくる。
対応する進捗評価項目とその推移	③ 牧野公園の桜の再生に留まらず、佐川町出身の植物学者牧野富太郎博士に因んだ植物を、地域住民の協力を得ながら植栽を進めた。 ④ 歴史まちづくりに関わる住民組織NPO法人佐川くろがねの会が佐川文庫庫舎、旧浜口家住宅等を舞台にして、多彩な催しを展開した。 (結婚式のための開放・酒蔵ロード劇場、等) ④ 住民サークルが、牧野富太郎ふるさと館等において、各種教室をおこなった。 (植物標本教室・草木染め教室・こけ玉教室・クリスマスリース教室、等) ④ 伝統芸能のグループが小中学校生を対象に、芸能の伝承に取り組んだ。 (四ツ白太刀踊・花取踊・瑞応の盆踊、等) ④ 重点区域内の自主防災組織が防災訓練をおこなった。 (年1回) ④ 平成25年度に設立された(社)さかわ観光協会が旧浜口家住宅、名教館の指定管理をおこなうと共に、重点区域内の各施設との連携のもと、観光客誘致のための取り組みをおこなった。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○ 旧浜口家住宅を(社)さかわ観光協会の事務所として、また、観光客を始め地域住民の喫茶休憩所として活用し始めたことで、風致エリアへの人通りが増えた。 (月平均約1,400人の利用者) ○ 牧野公園を「植物の精が息づく公園」として全国に誇れる公園づくりを進めようと、地域住民で話題が盛り上がり、平成25年度中に公園整備10カ年計画を策定した。 ○ 伝統芸能の子供たちへの伝承が、徐々にではあるが功を奏してきている。踊る姿の愛くるしさが、人気を呼んでいる。高校生まで続けているケースもあるが、そこから先は不透明で、根付かせることが課題である。 ○ 住民組織NPO佐川くろがねの会は活発に活動を展開しており歴史まちづくりに貢献しているが、活動する者の偏りと高齢化が課題ではある。
達成状況の評価、要改善事項	■ 想定通り効果が発現している ☐ 今後発現が予想される ☐ 要対策検討 ☐ 現段階では判断できない
計画見直しの必要性	■ 計画の見直しが不要 ☐ 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針)

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成20 年度～ 25 年度
計画に記載している方針	文化財の包括的な活用による歴史的風致の維持向上 ○ 佐川の風致に位置づけた各要素を包括的に利用するため青山文庫を核とし、連携を図る。 ○ 青山文庫を改修し、集客力を高めるとともに、佐川の歴史・人に焦点を当てた展示を実施する。 ○ 佐川文庫庫舎を元あった場所に移設する。 ○ 街並みを歩くことで、貴重な資料に触れ、歴史的建造物を見、歴史上のみならず現在の人を知ってもらう流れを作り出す。
計画に記載している課題	○ 歴史的建造物、伝統芸能、歴史的人物といった町の文化資源の活用が、それぞれ単体としてはあっても相互に連携して行われることが少ない現状 ○ 佐川文庫庫舎が中心市街地から離れた総合文化センター敷地内にあり、訪れる人もほとんど無く、周囲との違和感を抱かせる施設となっている。
対応する進捗評価項目とその推移	④佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・活用化事業が完了し、美術サークル展や、NPO法人のイベントで活用した。 ④青山文庫では設備の改修を行い、佐川にちなんだ企画展を行った。 ④文化財の修理について……………該当事例無し ④文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について事業の完了や、NPO団体との連携により区域内の回遊性を高め、訪問者の満足度を高める効果が見られた。 今後は、さらに隣接する酒蔵や旧商家なども含め、さらに価値観を高めていきたい。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○ 佐川文庫庫舎を上町地区に移築。移築後は一般公開するとともに、美術サークル展やNPO法人の催事等に開放(H23 39日、H24 34日、H25 25日) ○ 青山文庫の利便性の向上(照明、展示室及びトイレの改修、手摺の取付)、佐川にちなんだ企画展の回数(H23 4回、H24 6回、H25 4回) ○ 竹村家住宅、佐川文庫庫舎、青源寺(庭園)等と青山文庫が一体となった街並み散策のルート化。(NPO法人による観光ガイド実績 H25.12末現在 4,404人)
達成状況の評価、要改善事項	■ 想定通り効果が発現している □ 今後発現が予想される □ 要対策検討 □ 現段階では判断できない
計画見直しの必要性	□ 計画の見直しが不要 ■ 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 区域内には歴史ある酒蔵や建造物が現存しており、今後は民間施設も含め、建造物の活用の充実を図るなど、さらに歴史的風致の維持、向上を充実する必要がある。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成20 年度～ 25 年度
計画に記載している方針	教育・産業等との連携による歴史的風致の維持向上 ○次世代へ貴重な文化財を伝えるための学校教育・生涯学習の推進。 ○歴史的風土によって培われた食物や工芸品、芸能等を産業資源として活用することで付加価値化を図る。
計画に記載している課題	○当町においては、特に農村部は高齢化及び過疎化の進行が著しい。地域の若者人口の減少は、地縁団体の活動の弱体化を招く。このことは、その地縁団体に活動の根をおく民俗芸能の後継者不足に繋がってくる。
対応する進捗評価項目とその推移	④文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について ④文化財の保存及び活用の普及・啓発について 上記両項目に対して、NPOによる勉強会、子どもを対象とした歴史教室が定期的に行われている。(年1回) ④地域住民組織に於いて、佐川町出身の植物学者牧野富太郎博士に由来する植物の育生と、食用への研究を行う。特に佐川町訪問者への地域食材を活かした食事の提供を試験的に開始した。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○ 黒岩小学校では、「四ツ白太刀踊」(県指定保護無形民俗文化財)、黒岩中学校では「瑞応盆踊り」(同)、斗賀野小学校で「花取り踊り」(町指定同)の指導を受け、地域行事や学校行事などで披露した。(計9回) ○ 地域住民組織が開発した牧野富太郎弁当(御膳)を団体予約で試験提供を始めた。平成25年度約600食の実績。しかし取り組んでいる住民組織が生業にするには、高齢化など課題があり、若者人口の減少の解決には至っていない。
達成状況の評価、要改善事項	■ 想定通り効果が発現している □ 今後発現が予想される □ 要対策検討 □ 現段階では判断できない 無形文化財の伝承を通じ、地域と学校の繋がりがより強固になり、保存会も自らの活動に対してより高い意識をもち活性化している。 (要改善事項) 今後は、より効果を上げるよう各活動組織の連携を推進していきたい。
計画見直しの必要性	□ 計画の見直しが不要 ■ 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 次世代に文化遺産を伝えていくため、各学校とも調整のうえ、児童・生徒の地域のフィールドワークを行うなど、さらに効果的な展開を図りたい。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成20 年度～ 25 年度
計画に記載している方針	さらなる歴史的・文化的資源の発掘による歴史的風致の維持向上 ○文化財の調査と把握を継続して実施し、活用方法や有効な保存方法を検討する。 ○住民参加のもと、教育委員会、文化財保護審議会、まちづくり行政の緊密な連携を構築し、新たな発見、再評価による付加価値化。
計画に記載している課題	○佐川町にはまだ見出されていない文化資源が眠っている。 ○現状では、文化資源の掘り起こしに対する認識が必ずしも高いとはいえず、また、その体制も整っていない。
対応する進捗評価項目とその推移	④ 文化財の保存・活用に関わる住民、NPO等の連携は十分であるが、啓発についてはNPOが主催するイベントに偏っている。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○ 教育委員会事務局、文化財保護審議会による調査(年1回)、情報交換会(年4回)を定期的の実施している。 ○ 文化財の再評価を行い、新たな文化財の発掘に向けて動いている。 ○ 文化財マップやパンフレット等の作成を計画している。 ○ 関係機関とは必要あるごとに連絡、調整をもっている。(年4回程度)
達成状況の評価、要改善事項	☐ 想定通り効果が発現している ☒ 今後発現が予想される ☐ 要対策検討 ☐ 現段階では判断できない 文化財の調査を継続することはもとより、催しや学習会の実施などに固定化することなく、新たな展開を探っていく。
計画見直しの必要性	☐ 計画の見直しが不要 ☒ 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 町並み散策やイベントなど関係団体による企画だけではなく、町内外より新たな手段や手法についても意見を求めていく。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成20 年度～ 25 年度
計画に記載している方針	制度面の整備による歴史的風致の維持向上 ○ 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律の趣旨に則した新たな条例の制定または、既存条例の改正を行う。 ○ 土地利用計画に大まかに市街地整備区域となっている重点区域をより細かくゾーニングし、より具体的に明示する。
計画に記載している課題	○ 建造物の新築、増改築、修景等は街並み景観条例により一定の規制が可能だが、時代に即応していない面もあり、制度面の整備も必要である。
対応する進捗評価項目とその推移	② 佐川町街なみ景観条例に基づく措置については、下記方針の達成状況等に記した理由等もあり、進捗していない。 ② 土地利用に関する今後の措置については、下記方針の達成状況等に記した理由もあり、進捗していない。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	現行の街なみ景観条例は、街なみ環境整備事業(平成5年度～14年度)に対応して制定したものであり、現状は、新たな歴史的風致維持向上計画事業の推進の中で、条例そのものは機能していない状況にある。そのため、改正する必要があるが、歴史的風致向上計画の俎上に乗せれば、歴史的建造物の耐震化工事等も可能になるなど、制度面の深化が図ることができる反面、そのことを条例として表現することに難儀している実情にあり、それが作業が停滞している理由である。また、土地利用計画の策定については、対象となる重点区域は、今のところ高層の建築物が建つ見込みがなく、その必要性が薄まっている。。
達成状況の評価、要改善事項	☐ 想定通り効果が発現している ☐ 今後発現が予想される ☒ 要対策検討 ☐ 現段階では判断できない 既存の条例改正も土地利用計画の策定についても実情に沿ったものでなく、他の対策の検討が必要である。
計画見直しの必要性	☐ 計画の見直しが不要 ☒ 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 既存の条例改正も土地利用計画の策定についても現実的でなく、より実情にあった方策として、今後は景観計画等の策定をめざす。

総括評価シート【代表的な事業の質の評価】

(様式3-1)

評価対象年度	21 年度～ 25 年度
・歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
代表的な取り組み①: 佐川文庫庫舎(旧青山文庫)	
(取り組み概要) 明治19年、当時、須崎警察署佐川分署として新築された佐川文庫庫舎は高知県最古の木造洋館であり、これまで青山文庫、佐川文庫の閲覧室や、民具館と移転、用途の変更を繰り返してきた。歴史的価値の高いその建物を重点区域内に移築、老朽化による劣化の著しい屋根瓦の葺き替え、内外装の美装、補強等を行った。	
	
(青山文庫当時の建物外観)	(現在)
(自己評価) NPO法人佐川くろがねの会を中心にした雛人形の展示やミニコンサートなどの催しや、絵画サークルの展示が例年同じ時期に開催されるようになり、定着するとともに、先述のNPO法人や観光協会との連携は順調に推移しており、今後も協働のうえ更に活用を図りたい。	
(外部評価) ・外部有識者名(役職・肩書き等): 吉野毅(佐川町歴史的風致維持向上計画協議会会長) ・外部評価実施日: 平成26年2月8日 ・有識者コメント 佐川文庫庫舎は、催し物の時以外は建物を公開するだけで、多少もの足りないと感じることもありましたが、昨年末にここで結婚式をあげた方がいると聞きました。これまで、ここでの行事は文化サークルがギャラリーとして利用することが多いように思っていたこともあって、結婚式のように住民自ら企画した催物が行われたことは大変新鮮に感じます。今後もイベントの開催だけではなく、こうした住民の思い出づくりの場として利用されることを望んでいます。また、西洋風な外観に興味を持つ人も多く、ここで写真撮影する人をよく見かけます。施設(敷地等も含めて)を清潔に保ち、今後も良好な状態で公開するようお願いします。	
(今後の対応方針) 建物の利用について柔軟に対応するため、昨年、さかわ観光協会を指定管理者に指定した。また、普段は施設に行っても建物内の見学するだけであるとの指摘もあるため、建物が元来警察署であったことから、警察署当時をしのばせるパネル等を制作し、展示する予定である。	

総括評価シート【代表的な事業の質の評価】

(様式3-1)

評価対象年度 平成21 年度～ 25 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み②: 浜口邸買取り・整備事業

(取り組み概要)

歴史的風致形成建造物指定予定の浜口邸を買取り、老朽化により崩れている塀の修理、内外装の整備、耐震補強工事を行い、並びに旅の宿施設としての機能を付加する。



(改修前)



(改修後)

(自己評価)

濱口家住宅は幕末期には酒造商家であり、購入改修を経て当時の面影を残した建造物として整備が出来た。現在 さかわ観光協会が指定管理を受けて、事務所兼観光客や地域住民の休憩所として機能し始めた。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等): 吉野毅(佐川町歴史的風致維持向上計画協議会会長)

・外部評価実施日: 平成26年2月8日

・有識者コメント

旧浜口家住宅については、町の所有となるまで建物の詳しい歴史について殆どの方が知らなかったのではないかと思います。改修工事が完了し、現在は観光協会が管理しているとの事ですが、もっと建物の由緒や歴史的価値等の情報について町から積極的に発信していくべきではないでしょうか。

また、計画では宿泊機能を付加するとなっていますが、私が見聞きした限りでは、宿泊施設というよりも特に若年層にとってはお洒落な喫茶店であるとの認識が今のところ遙かに高いようです。宿泊、喫茶機能ともに持つことについて異議はありませんが、今後の事業展開によっては見直すことも視野に入れておくべきだと思います。

(今後の対応方針)

現在管理しているさかわ観光協会と町とが連絡を取り、建物の由緒についてパンフレット等を活用して情報を発信する。また、宿泊機能については、法的なものをしっかりクリアし、マニュアル整備も行い、事業を開始するように努める。

総括評価シート【代表的な事業の質の評価】

(様式3-1)

評価対象年度 平成21 年度～ 25 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み③: 牧野富太郎生家再生事業

(取り組み概要)

上町・西谷地区出身の世界的植物学者であり、「文教のまち」を象徴する人物の一人である牧野富太郎の生家の母屋と付属屋を、生誕150年(平成24年(2012年))記念事業の一環として、生誕地に再生する。加えて、同施設を博士関係の資料を展示する学習館として整備する。



(整備前)



(整備後)

(自己評価)

牧野博士の誕生日である4月24日のオープン以来、町並み散策の際の立ち寄る場所としてだけでなく、植物にちなんだ催し(標本づくり、こけ玉教室など)の開催や、子どもたちが牧野博士をはじめとする佐川の先人達や地域の歴史を知るきっかけの場としても活用されている。

今後も広く牧野博士について知ってもらえる場としてだけでなく、地域内に移築される名教館(牧野博士も学んだ郷校。後に佐川小学校となり、そこで牧野博士も教鞭をとった)と連携し、地元の子どもたちに将来地域に誇りをもってもらえるよう「ふるさと教育」の場としても、さらに活用していきたい。

4月(24日)～12月末までの来館者 4,377人

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等): 吉野毅(佐川町歴史的風致維持向上計画協議会会長)

・外部評価実施日: 平成26年2月8日

・有識者コメント

植物分類学において多くの業績を残し、「日本の植物学の父」と呼ばれ、今も多くの町民が敬愛し、本町出身であることを誇りに感じている牧野富太郎博士の生家が復原されたことは大変喜ばしいことであると思います。

開館し間もなく1年となりますが、地域の集会所を兼ねているため、仕方がないのかもしれませんが、展示スペースが狭く、また内容にもあまり変化が見られなかったことは、多少残念に思います。今後は、さらに工夫を凝らし、来館者が再び訪れたいと思える施設となるよう望みます。

(今後の対応方針)

来館者の満足度を高め、また区域内の歴史的建造物群とさらに連携するため、次年度より施設の所管を教育委員会に変更する。また、町立博物館の学芸員を活用し、さらに展示内容の充実を図っていく。

評価対象年度	平成21 年度～ 25 年度
・歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
代表的な取り組み④: 牧野公園整備事業	
(取り組み概要) 牧野富太郎博士の顕彰を図るため、歴史的風致形成建造物指定予定の牧野公園に遊歩道の整備と博士由来または縁の深い植物並びに秋期も楽しめる紅葉樹等を植栽し、憩いと学習の場として公共公益施設の高質化を実現のため、古い桜や雑木の伐採をおこない、リニューアルを進めてきた。H25年度は遊歩道整備を予定していたが、計画を延長し、年度繰越を予定している。	
	
散策道の整備(左・施工前 右・施工)	
(自己評価) 牧野公園は桜が大変美しい公園として桜名所百選にも選定されている公園であったが、ソメイヨシノには寿命があり平成10年頃から公園の桜が老木となったことで倒木が頻発し、危険なことから古い桜や雑木の伐採をおこない、リニューアルを進めてきた。まだ佐川町出身の植物学者牧野富太郎博士に因んだ植物の育成や桜の再生には時間を要するが、散策路の安全確保のため安全策の設置ができた。	
(外部評価) ・外部有識者名(役職・肩書き等): 吉野毅(佐川町歴史的風致維持向上計画協議会会長) ・外部評価実施日: 平成26年2月8日 ・有識者コメント 植物分類学において多くの業績を残し、「日本の植物学の父」と呼ばれ、今も多くの町民が敬愛する本町出身の牧野富太郎博士の名前を冠した公園が、博士由来の植物の植栽や桜の再生等を通して、町民や観光客に喜ばれるスポットとして整備されていることは、有意義であると考えます。	
(今後の対応方針) 牧野博士に由来する植物の植栽や雨天時の利用者の安全確保の観点から、植物の生育環境の配慮や降雨時に利用しやすい公園にするため、整備には雨水対策が必要となった。その対策を検討し、遊歩道の舗装整備に反映するようにするため、事業期間を延長する。	

法定協議会等におけるコメント

(様式4)

評価対象年度	平成25年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称： 第1回佐川町歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時： 平成25年12月17日	
(コメントの概要) ○施設が整備され、多くの観光客が来てくれている。休みの日には、大型観光バス2～3台が近くの料理屋に止まっている。しかしながら重点地区には駐車場がない。一番の問題である。 ○リピーターを増やすことが重要。休憩所、食事をするところ、お土産。お金を落としてもらえるように。 ○蔵の外観から見るだけでなく、他の活用方法も検討していくべき。	
(今後の対応方針) ○駐車場の問題については、早急に検討を重ね結論を出すように対応する。 ○変更後の風致計画に基づき、整備した施設をいかに活用し、集客、お金を落とすシステムを検討していく。	